

競 技 注 意 事 項

1. 規則について

本大会は、2023 年度日本陸上競技連盟競技規則ならびに本大会申し合わせ事項により実施する。

2. 練習場および練習について

練習会場利用日程及び注意事項

練習会場	種目	5月12日	5月13日	5月14日	備考
メイン競技場	トラック	13:00~18:00	7:15~8:15	7:15~8:35	① 周回(アップ・ジョグ不可) 1~2レーン 周回練習
					②ホームストレート 3~7レーン 短距離 8~9レーン ハードル
					③第1曲走路~バックストレート~第2曲走路中央 3~7レーン短距離 8~9レーン ハードル
	※フィールド内は使用不可				
	走高跳	13:00~18:00		7:15~8:35	天候、状況によって制限あり
三段跳	13:00~18:00	7:15~8:15	7:15~8:35	砂場の整地は練習者が行う	
砲丸投	13:00~18:00			安全面に十分配慮する	
補助競技場	トラック	13:00~18:00	7:15~16:20	7:15~16:10	1~2レーン 周回練習 3~6レーン 短距離 7~8レーン ハードル ※ハードルの設置は練習者が行う
					※フィールド内は使用不可
	走高跳		7:15~16:20		天候、状況によって制限あり
	走幅跳	14:00~16:30	7:15~16:20	7:15~9:30	砂場の整地は練習者が行う

- (1) 上記の日程表に従って練習する。
- (2) 練習は、各チームの監督の管理のもと、指定された場所・時間帯で、事故防止に十分配慮して行う。
- (3) 練習時間・練習場所は、天候、状況によって変更や制限をすることがある。
- (4) 練習会場には、出場競技者、監督、コーチ以外は立ち入らない。
- (5) 練習会場では、係員の指示に従って練習する。
- (6) 投擲器具の貸し出しは行わない。
- (7) 投擲用具を使用した練習は上記の時間以外は認めない。また、円盤投、やり投、ハンマー投の練習は行わない。練習中は投げる前に必ず声をかけ、周囲の安全を十分に確認してから行う。
- (8) 本競技場芝生内でのウォーミングアップは禁止とする。

3. 競技場使用について

- (1) 本競技場は、全天候舗装である。スパイクシューズのピンの長さは、トラックでは9mm以下、フィールド（走高跳・やり投のみ）では12mm以下を使用すること。（競技場保護のため、先の尖ったピンの使用を極力控えること。）建物内ではスパイクで歩かないこと。
- (2) 出場競技者は競技役員の指示に従って入退場すること。
- (3) 本競技場敷地内は禁煙であり、所定の喫煙所はない。

4. 招集について

- (1) 招集所は第2ゲート（100mフィニッシュ側）付近に設置する。
- (3) 各係の指示に従って、各出発地点及び各試技場等で最終点呼を受けること。リレー種目については、全員が第2ゲート（100mフィニッシュ側）にて揃って招集を受けること。
- (4) 棒高跳は現地招集とする。
- (5) 招集完了時刻に遅れた者は、棄権とみなす。
- (6) 同時進行種目への出場競技者は、あらかじめ「重複出場届」に必要事項を記入し、各競技招集開始時刻の30分前までに招集所に提出する。「重複出場届」は学連受付（正面玄関内）、招集所において配布する。
- (7) リレーのオーダーは、学連受付（正面玄関内）、招集所にて配布する「リレーオーダー用紙」に必要事項を記入して、1組目招集完了時刻1時間前までに招集所に提出すること。どのラウンドにおいても出場するメンバーのうち、少なくとも2名は該当リレー種目に申し込んだ競技者でなければならない。また、予選を通過したチームは、2名まで選手変更を申し出ることができる。ただし、その2名はプログラムに記載がある者に限る。

5. 棄権について

- (1) 出場競技者の棄権は、予め代表者会議（5月12日（金）15:00より新潟市陸上競技場会議室で行う。）で届け出ること。
- (2) 当日やむを得ず棄権する者は、学連受付（正面玄関内）にて「棄権届」に必要事項を記入し、招集開始30分前までに招集所に提出すること。

6. アスリートビブスについて

- (1) アスリートビブスは本大会で配付したものを使用すること。
（本大会で配付したアスリートビブスは、第54回北信越学生陸上競技選手権大会でも使用するので、加盟校または登録競技者において保管すること。）
- (2) アスリートビブスは、胸・背両面につける。1500m、3000mSC、5000m、10000m、10000mWの出場者は、胸・背両面に招集時に配付される通し番号のアスリートビブスをつけること。ただし、跳躍競技においては、胸または背のどちらか一方でもよい。
- (3) トラック競技出場者は、招集時に配付される通し番号の腰ナンバー標識をパンツ右側につける

こと。4x400m リレーは第 4 走者のみ腰ナンバー標識をパンツ右側につけること。

7. 競技用器具について

- (1) 競技に使用する用器具は、すべて主管者側が用意したものを使用すること。ただし、投擲物一覧に記載のない投擲用具とポールについては、当日事前に検査を受け、使用許可を受けたものに限り個人所有のものを使用することができる。
- (2) 個人所有の投擲物は器具庫横にて競技開始時刻の 2 時間前からの 30 分間で検査を受けて許可されたものでなければ使用できない。検査を受けた投擲物は借り上げ式とし、競技者全員が使用することができる。ポールの検査は最終コール終了後、現地で行う。
- (3) 本大会においては、ワールドアスレティックス（以下「WA」という。）の WA 規則 TR5 の再改訂を適用する。今回の改訂にて定義されたシューズ（スパイク、ランニングシューズ含む）の競技ごとの厚さは以下の表に記載する。WA が靴底の厚さを認めるシューズのリストは、WA のサイトで都度更新されるものに従う。必要に応じて、靴底の計測を行う。ただし、フィールド種目においては WA 規則を適用しない。（下記表の（ii）参照）

競技用靴・靴底厚さ表

【2024年10月31日まで有効】

種目	ソールの最大厚さ (本規程 10.6 による)	その他の要件 / 注意
フィールド種目 (除：三段跳)	20 mm	全投てき種目と高さを競う跳躍種目および三段跳を除く長さを競う跳躍種目に適用。 全フィールド種目で、本規程 10.3 および 10.4 で言及されているように、靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの 75% にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの 12% にある靴の中心点）。
三段跳	25 mm	靴の前の部分の中心点の靴底の厚さは、踵の中心点の靴底の厚さを超えてはならない（前足の中心は、靴の内部の長さの 75% にある靴の中心点。踵の中心は、靴の内部の長さの 12% にある靴の中心点）。
トラック種目 (800 m 未満の種目、ハードル種目を含む)	20 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。
トラック競技 (800 m 以上の種目、障害物競走を含む)	25 mm	リレーにおいては、各走者が走る距離に応じて適用する。競技場内で行う競歩競技の靴底の厚さは、道路競技と同じとする。

8. 競技について

- (1) 競技中における助力は「日本陸上競技連盟競技規則 TR6」に則り規制される。これに抵触する場合は審判長から注意・警告をするが、是正されない場合はその種目から除外される場合がある。
- (2) 競技中における失格は「日本陸上競技連盟競技規則 TR7」に則り規制される。競技者がある種目で CR18.5 に定める競技者にあるまじき行為あるいは不適切な行為等、あるいは TR16.5 により 2 度目の警告を受けた場合は失格となる。特にスタートの遅延行為がこれに該当するため注

意すること。もし、2度目の警告が違う種目で行われた場合は2度目の種目で失格となる。

(3) トラック競技

- ①レーン順はプログラム記載通りとする。
- ②短距離走では、競技者の安全確保のため、フィニッシュライン通過後も自分に割り当てられたレーン（曲走路）を走ること。
- ③スタートの合図は英語で行う。
- ④不正スタートは1回で失格とする。但し、スターターの号砲以前の動きは注意のみとする。
- ⑤男女 5000m、男子 10000mはグループスタートで行う。
- ⑥男女 5000m、男女 10000m、男女 10000mWについては時間制限を設ける。それぞれ以下に示した時間までに残り一周に到達しない場合はレースを打ち切ることとする。

	5000m	10000m	10000mW
男子	20 分	40 分	55 分
女子	25 分	45 分	60 分

(4) リレー競技

- ①4x100m リレーの競技者は、自らが用意した大きさが最大 50mm×400mm の粘着テープを1箇所、自らのレーン内に貼ることが許される。それ以外のマーカの使用は認められない。その撤去は使用したチームが責任をもって行うこと。
- ②リレーに出場するチームは、同一のユニホームを着用すること。

(5) フィールド競技

- ①フィールド競技における競技場内での練習は、すべて競技役員の指示に従うこと。
- ②跳躍種目及びやり投の競技者は、助走路の外側（走高跳は助走路内）に主催者が用意した規定のマーカを2個まで置くことができる。ただし、走高跳のマーカは競技者が用意すること。また、砲丸投・円盤投・ハンマー投についてはサークル直後あるいはサークルに接して、主催者が用意したマーカを1つだけ置くことができる。これらの撤去は使用した競技者が責任をもって行うこと。
- ③三段跳の踏切板の位置は、男子は12m、女子は9mとする。
- ④棒高跳の競技者は、希望するアップライト位置を競技開始前に跳躍審判員に申し出ること。
- ⑤走高跳および棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	6	
男子走高跳	1m70	1m75	1m80	1m85	1m90	1m95	2m00	以後 3cm 刻み
男子棒高跳	2m80	3m00	3m20	3m40	3m60	3m70	3m80	以後 10cm 刻み
女子走高跳	1m25	1m30	1m35	1m40	1m45	1m50	1m55	以後 3cm 刻み
女子棒高跳	2m00	2m20	2m40	2m60	2m70	2m80	2m90	以後 10cm 刻み

(注) 第1位決定試技の際のバーの上げ下げは、走高跳は2cm、棒高跳は5cmとする。優勝が決まった後にバーを上げる場合は、競技者は当該審判員あるいは審判長に希望の高さを申し出てから高さを決定する。

⑥男女ハンマー投の試技順は、女子を先とする。

9. 抗議について

競技進行中に起きた競技者あるいはチームの行為、または順位に関する抗議については、その競技者あるいはチームの監督が、その種目の結果の正式発表（アナウンス）後 30 分以内に、次のラウンドが行われる競技では 15 分以内に、学連受付（正面玄関内）に申し出ること。その後、担当総務員を通して口頭で審判長に行く。その間抗議者は学連受付（正面玄関内）で待機すること。

10. 携帯電話等通信機器の持ち込みについて

競技場内に携帯電話等通信機器の持ち込みは禁止とする。出場種目の招集時にもっていかない。

11. 表彰について

- (1) 表彰は各種目 3 位まで行う。該当する者は競技成績発表（アナウンス）終了後、表彰を行うので、各学校の公式ジャージ等を着用の上表彰待機場所（1 階）に集合し表彰係の指示に従うこと。該当者が他の競技に出場し、受賞出来ない場合は所属校から代理を出すこととする。その際に、表彰係に代理人であることを申し出ること。
- (2) 各種目 4 位～8 位には賞状を授与するので、表彰係で受け取ること。
- (3) 最優秀選手（男女各 1 名）、優秀選手（3 名）にはトロフィーを授与する。
- (4) 対校得点は、1 位 8 点、2 位 7 点、以下 6、5、4、3、2、1 点とする。
- (5) 総合得点が同得点の場合、1 位種目の多い学校、それでも決まらない場合は 2 位種目の多い学校、以下 3 位、4 位、5 位、6 位、7 位、8 位、4×100mR の成績、4×400mR の成績で決定する。

12. 天皇賜盃第 92 回日本学生陸上競技対校選手権大会へのエントリーについて

各種目優勝者には 9 月 14 日（木）～17 日（日）まで、熊谷スポーツ文化公園陸上競技場で行われる天皇賜盃第 92 回日本学生陸上競技対校選手権大会の出場標準 C 標準記録突破者として参加する権利が与えられる。

なお、本項目は、同大会主催の公益社団法人日本学生陸上競技連合において C 標準記録に関する設定された場合に限り、かつ同大会の開催要項の定めるところによる。

13. その他

(1) 応急処置について

競技中の事故等による身体の故障の場合、医務員が応急処置を行うが、その後の治療は本人または所属チームの責任で行うものとする。また、事故の結果について、本連盟は一切責任を負わないものとする。テーピングは自己負担とする。